

「台灣原住民姓名與身分登記： 連接今昔的文化、社會、制度」工作坊

ワークショップ「台湾原住民の姓名と身分登録：過去と現在をつなぐ文化・社会・制度」開催報告
Workshop on Taiwan Aboriginal Personal Names and ID Registration:
Connecting Past and Present Cultural, Society and Institution

文 | 松岡 格 (日本獨協大學國際教養學部副教授) 圖 | 松岡 格、編輯部

譯 | 陳由璋 (政大原民中心「新增四語原住民族語言教材編輯計畫」專任助理)

2015年12月12日(土)、早稲田大学早稲田キャンパスにてワークショップ「台湾原住民の姓名と身分登録」を開催した。

冒頭、主催者を代表して、早稲田大学台湾研究所所長の若林正丈教授(政治経済学術院)が開会の挨拶を述べた。続いて、笠原政治教授(横浜国立大学名誉教授)の紹介によって、林修澈教授(国立政治大学原住民研究センター・センター長)による特別講演が行われた。林教授の講演は「伝統的命名と人名登記」と題するもので、原住民の伝統的命名についての研究成果をふまえて人名登記の現状をめぐる問題について解説、その解決策をめぐる理論的提言が行われた。講演の豊富な内容に刺激を受け、会場の要望に応じて、予定になかった質疑応答の時間を設け、参加者から多くの質問が寄せられた。

「台湾原住民と文化」及び「身分登録と姓名」をめぐる議論

以お昼休みをはさんで、「台湾原住民と文化」をテーマにしたワークショップ第一部が行われた。野林厚志教授(国立民族学博物館)による「台湾ヤミ族の名制と社会関係」、森口恒一教授(静岡大学名誉教授)による「言語の発生から見た台湾原住民の『なま

2015年12月12日(六)於早稲田大學早稲田校區召開「台灣原住民姓名與身分登記」工作坊。

工作坊開場由早稲田大學台灣研究所所長若林正丈(政治經濟學術院教授)代表主辦單位問候致詞。致詞結束後，在橫濱國立大學名譽教授笠原政治介紹下，進行政治大學原住民族研究中心主任林修澈教授的特別演講。林修澈的演講主題為「民族名制與人名登錄」，其演講立基於原住民傳統命名相關研究成果，解說人名登記現狀問題，並針對解決對策提出理論意見。現場來賓受到豐富演講內容啟發後，發言提問相當踴躍，為因應會場要求，工作坊特別加開Q&A時間，以滿足來賓熱絡提問。

以「台灣原住民與文化」及「身分登錄與姓名」為討論核心

工作坊第一場包含午休時間，主題為「台灣原住民與文化」。發表人



早稻田大學台灣研究所所長若林正文開會致詞。



演講中的林修澈教授。

え』」、黄季平准教授（国立政治大学）による「国立政治大学『原住民族傳統姓名登記』プログラム」が発表された。笠原政治教授はルカイ族とプユマ族の事例を補いつつ、伝統姓名についての理論的な指摘を行った。春山明哲客員上級研究員（早稲田大学台湾研究所）からは、霧社事件関連の史料に記録された原住民の人名の歴史的社会的意義について解説があった。

「身分登録と姓名」をテーマにした第二部は、松岡格准教授（獨協大学）による「台湾社会の可視化とエスニシティ・姓名」、イワン・ナウイ研究員（中央研究院）による「セデック族の人名表記」、宮岡真央子准教授（福岡大学）による「ツォウの姓名の過去と現在」が発表された。清水純教授（日本大学）からは姓名の漢族化、清朝時代の原住民姓名の状況についてコメントがあり、若林正文教授からは国家による可視化プロジェクトについて理論的整理・考察が示された。

ワークショップ内容をまとめた成果論文集

本ワークショップには研究界の重鎮、気鋭の中堅研究者、若手研究者、大学生とさまざまな参加者が出席

国立民族学博物館教授野林厚志発表「台湾雅美族の名制與社會關係」、静岡大学人文社会科学部名誉教授森口恒一発表「從語言產生觀看台灣原住民『名字』」、政大民族学系副教授黄季平発表「政大『原住民族傳統名字登記』計畫的執行」。笠原政治補充魯凱族與卑南族事例、並就傳統姓名提出理論性指正。早稲田大學台灣研究所客員上級研究員春山明哲則以霧社事件相關史料所記錄的原住民族人名，解說其歷史性、社會性意義。

第二場主題為「身分登録與姓名」。筆者発表「台灣社會可視化與族群性、姓名」、中央研究院研究員伊萬納威發表「賽德克族の人名標示」、福岡大學人文學部文化學科副教授宮岡真央子発表「鄒族姓名の過去與現在」。日本大學經濟學部教授



春山明哲研究員的評論。(圖片提供 松岡格)

し、かつ議論に参加した。今回のワークショップでは企画者の用意したトピックについて活発な議論が行われたが、それだけに止まらず、発表内容および参加者やコメンテーターの指摘により、新たな発見もあった。これからの原住民研究の発展に寄与するものと思われる。この発表内容は、いずれ論文集の形にまとめる予定であるので、上記講演・報告・コメント内容の詳細はそちらをご覧ください。このうち筆者による発表内容の一部は、やはり本号に簡略な形で掲載していただいたので、あわせてご覧ください。幸いである(本号『原教界』「原教前線」参照)。

最後に、本ワークショップは日本文科省科研費(若手研究B)「台湾原住民族社会可視化の影響の複雑性の

伊萬納威研究員的發表。



清水純從姓名漢化、清朝時代原住民姓名狀況提出評論，若林正丈則從國家進行可視化專案這部分提出理論性整理及考察。

工作坊內容將彙整為論文集

本工作坊參與者有學界的研究重鎮、精銳的中生代研究者、年輕研究者、大學生等各方人士出席參加議論。本次工作坊現場來賓對企劃單位準備的議題有熱烈討論之外，藉由發表內容及參與者或講評人的指正，亦有嶄新的發現。這些發現可望對未來原住民研究發展有所貢獻。此次工作坊所發表的內容，假以時日將以論文集形式彙整公開，本刊讀者對上述講演、報告、評論等詳細內容若有興趣，屆時請再參閱論文集內容。論文集整理之前，筆者先將在工作坊上發表過的部份內容以簡略形式刊載於本



工作坊現場情形。

期《原教界》，希望本刊讀者能一併參閱。（請參閱本期原教前線〈身分登錄文件、記載事項與其設定影響——台灣社會可視化與族群性、姓名〉）。

結尾之際，本次工作坊由日本文科省科研費（青年研究B）「台灣原住民族社會可視化影響複雜性之解明：戶籍、地圖、其記載資訊研究」、同科研費（基礎研究B）「台灣原住民族的分類與認同的可變性相關人類學性質研究」、早稻田大學台灣研究所、少數族群研究會（EMS）共同主辦。在此感謝相關團體單位。另外，有賴於政大原民中心，歷年來舉辦台日原住民研究者研討會「台日論壇」，培育學術交流，才能催生本次工作坊。身為日本研究者之一，一路以來受其恩惠，在此致上最深的謝意。◆



笠原政治教授的評論。（圖片提供 松岡格）

解明：戶籍、地図、その記載情報の研究」、同科研費（基盤研究B）「台湾原住民族の分類とアイデンティティの可変性に関する人類学的研究」、早稲田大学台湾研究所、エスニック・マイノリティ研究会の共同主催によって開催された。関係各団体に感謝する。また今回のワークショップの開催は、政治大学原住民族研究センター（ALCD）が行ってきた台湾と日本の原住民研究者のフォーラム「台日論壇」で育まれてきた知的交流の上に成り立っている。その恩恵をうけてきた日本人研究者の一人として、厚く感謝したい。